

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I 理念に基づく運営</b>				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心、安全、尊厳の実行が出来る為に職員全体の心に浸透する言葉で独自の理念を掲げている。	○	理念が古びていかないよう、毎日新たな気持ちで理念と向き合っていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、夜勤申し送り時に唱和を行い常日頃において理念に基づいたサービスが出来るように心掛けている。	○	今後も毎朝唱和を行い、入居者様にとってより良きケアが出来るように努めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	お・お・き・ま・ちを頭文字として、朝日苑は地域に密着した明るく優しく新しい介護の場所であるという詩を作り、朝日苑だよりに紹介した。	○	現在、ホームページを立ち上げる為、作成中である。ご家族や地域の皆様に、より広く深く朝日苑を知り親しんでいただけるように準備している。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	以前は散歩される方々、農作業に来られる方と挨拶を交わす程度でしたが、今では世間話が出るようになった。	○	今後も気軽に挨拶を交わし、もっと朝日苑を知っていただき、より良き関係を築けるように心掛ける。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	平成20年7月より区長さんの協力により、地域の自治会に入会させていただき、行事の案内や町だよりの回覧を受け地域交流の活動に役立っている。	○	グランドゴルフ数名の入居者様と一緒に楽しむことができた。今後、花火大会、空き缶拾い、生き物調査、左儀長等の催しがあり、地域の一員として出来るだけ参加をしたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じた、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居者様のご近所のお友達の状況をお聞きした時は、出来るだけお役に立てるように心掛け、例えば洗濯物を取り込む等お手伝いをしている。	○	苑内焼肉パーティーがとても好評だったので、ご家族やご近所のご高齢の方にも声を掛けていきたいと思っている。楽しみが苑内に留まらず、地域の方と共に楽しむコミュニティーケアの場になりたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価により各自の対応を振り返り、それを基に全員で話し合い改善に向けて取り組んでいる。	○	今後も自己評価に取り組み質の向上に努めていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議において助言や地域行事を教えていただき、サービス向上の実践につなげている。	○	運営推進会議のメンバーを増やし、苑の運営や活動に活かしていきたい。ご家族代表として二名の方の参加が決まり、さらに地域の民生委員様にも参加の相談をする予定である。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談事があれば市町村の担当者と連絡をとったり訪問したりしている。又、地域密着型サービス事業者会やケアマネ連絡会に出席し、情報交換を行いサービスの質の向上に活かしている。	○	今後はもっと市町村や行政との関わりを持ち、密に情報交換を行うことでサービスの質の向上に繋げていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、苑内において講師を招き研修を行ったが事例はまだない。権利擁護は外部研修に参加し、全体会議で報告を行った。	○	今後も必要な時は活用出来るよう理解の向上に努めていきたい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎朝の申し送りや毎月のミーティングで虐待につながる言動についてはどんな些細なことでも注意するように未然に防ぐ為の全員の協力を求めている。	○	高齢者虐待防止関連法の理解の向上に努めていきたい。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を提示しながら、理解されるまで解りやすい言葉で丁寧に説明を行い、納得した上で同意が得られるように努めている。	○	今後も十分な説明を行い、納得された上でサービス提供が出来るように努める。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの意見等は必ず会議にて話し合い運営に反映させるようにしている。又、介護相談員を受け入れ外部者へ会話出来る機会を設けている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	朝日苑便りを作成し手渡し又は郵送してお知らせすると共に面会時には日常生活の状況を報告、必要な時には電話連絡をしている。	○	職員はご家族とのコミュニケーションを絶やすことなく信頼関係を保ち、入居者様とご家族の良い関係の手助けに努めていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの苦情をミーティングや全体会議で取り上げ職員全体で共有した上、話し合いを持っている。受付けから処理まで一連の対応を記録に残し運営推進会議へ報告している。	○	今後もご家族から意見を言ってもらえるような雰囲気作りに心掛ける。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の各棟ミーティング、管理者会議、役職会議、全体会議を欠かさず行い、情報を共有し、問題点、疑問点を全員で解決するように努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者様の状況に応じ、早出、日勤、遅出の時間帯を変更し、細やかな調整を行っている。勤務変更は早目に行い、人員配置に支障をきたさないようにしている。	○	人手が足りなかった等の理由でリスクが生じないように、これからも努めていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者様への個別ケアを統一して行う為には、職員による入居者様への深い理解が必要になる。異動や離職の場合は、新しい職員と少なくとも2週間程の引継ぎ期間を持つようにしている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては面接を行い、面接者のモチベーションを確認すると同時に面接者には職場を愛し、仕事を積み重ねていける配慮を怠らないことを伝えている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する研修会に参加し、苑内の全体会議で発表した。人の話を心で聴く、お互いに思いやりを持って学び合う等、啓発に繋がったと思う。	○	更に研修の機会を持ち、理解を深めていきたい。
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は特に苑内での研修に力を入れ、月1回定期的に当番の職員が演者となってテーマを決め発表した。技術・知識・意識の向上に繋がってきている。	○	今後も笑いを交えながら苑内勉強会を続けていきたい。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高齢者グループホーム協議会主催の研修会「福岡発明日のグループホームを考える」又、全国小規模多機能型居宅介護事業者連絡会に参加し、講師による講演を聞き、貴重な意見の交換が出来た。	○	様々な介護現場の状況を知ることにより、知恵と努力の必要性を感じながら取り組んでいきたい。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員全体の交流や親睦を図る為、新年会、夕涼み会を恒例としている。又、大川三瀨医師会の文化祭の一環で催されるボーリング大会、講演会、夕食パーティーに希望者を参加させている。	○	運営者としてこれからも、必要に応じ職員の個別面談を行っていききたい。思いやりを持つことや物事を正しく把握し、前向きな考え方を訓練することを指導しながら、話し合える環境作りにも努めたい。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年一度の昇給と夏と冬のボーナスは、その仕事ぶりに応じた評価を加味したものとなっている。各自の努力や実績に対しては見落とすことのないように努めている。	○	労務管理に関する講習会に参加している。ブライندウォークという実習は、労務管理の上で大変参考になった。これからも参加を重ねていきたい。
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に本人様を訪ね、心身の状態や不安等を聴いたり、アセスメントで情報収集を行うことで本人様の状態や希望に沿ったサービスを提供出来るように取り組んでいる。	○	相談から利用に至るまでに、本人様やご家族等からの情報を多く取り入れ、安心して利用出来るように努めていく。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時にご家族と話し合い、これまでの生活歴や家庭での状態、ご家族の思いや希望等を伺い、職員間で十分に話し合っ出来る限り思いや希望を反映させたサービス提供に努めている。	○	今後も出来る限りご家族の思いや希望を反映させたサービス提供に努める。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合、まず本人様及びご家族の意向や要望等を伺い「今一番に求められるサービスは何なのか」を見極め、他のサービス利用も含め対応を行っている。	○	地域密着型サービス機関としての役割を入居相談にみえたケースだけでなく、地域の方々が地域で安心・安全な生活の継続が出来るような支援サービス機関としての役割を担っていきたい。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用相談時に苑内の見学を行い、実際に苑での生活を肌で感じていただくことで雰囲気馴染めるように取り組んでいる。又、本人様やご家族の要望等にも配慮し、信頼関係構築に努めている。	○	今後も信頼関係構築に努め、安心して利用していただけるように努める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で入居者様一人ひとりの個性を引き出し支援している。園芸や思い出話を通し、入居者様と共感したり教えていただいたり、支え合う関係が築かれている。	○	入居者様と介護職員という立場をわきまえつつ、家族のような深い絆を作れるように支援していきたい。
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ入居者様の日頃の状況、状態を伝えたり、ご家族の不安、要望を伺う等コミュニケーションを図り信頼関係が築けるように努めている。	○	行事に参加していただいたり、コミュニケーションの場を広げ、より一層信頼関係が深まるよう努めていきたい。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人様の思い、ご家族の思いを理解する努力と、その思いに少しでも添えるようにという行動をすることで、お互いの思いが解かり合えるように心掛けている。	○	今後はもっとご家族への報告、連絡等をこまめに行い、より良い関係が築けるように努める。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の方が気持ちよく来苑していただけるように笑顔での対応を心掛け、お茶を出したり、時候の話をしたりと雰囲気作り努めている。又、希望時には手紙、電話をしていただき、関係が途切れないようにしている。	○	地域交流に力を入れていき、地域の方々と馴染みの関係になり、気軽に来苑していただけるように努めたい。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ソファは横に並べて入居者様が座る位置等配慮して入居者様同士、話をしたり、歌を唄ったり、テレビを観たり、お茶を飲んだりして孤立しないように職員が気を配り楽しく過ごせるように努めている。	○	入居者様同士の会話等に職員も参加をし、目配り気配りをしながら入居者様同士お互いに楽しく交流が持てるように支援していきたい。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も継続的な関わりを必要とする個々のケースに応じた対応をし、連絡を取る等、関係をつないでいる。	○	退居されたご家族にも行事等の声掛けを行い、交流を継続していけるように努めていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉、表情、動作等から一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な方に対しては、表情や動作、ご家族との話の中から少しでも多くの情報を収集し、出来る限り本人様の意思に添えるように努めている。	○	意思の疎通が困難な方に対しては、本人様の思いや意向を明確に把握出来るように、今まで以上に深い関わりが持てるように努めていきたい。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートの作成やご家族からの情報収集を行い、生活歴や生活環境、サービス利用の経過等の把握に努めている。	○	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方を踏まえ、出来る限り以前と変わらない生活を送っていただけるように努めていきたい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	合同で行うラジオ体操やレクリエーション、希望に応じて家事の手伝いをしていただいている。又、生活歴や趣味を生かした手芸や習字、計算ドリル、読書等一人ひとりが望まれる生活を提供出来るよう努めている。	○	今後も入居者様一人ひとりの生活習慣や身体状態に応じた対応が出来るように努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人様やご家族には、日頃の関わりの中で思いや意向を伺い、サービスに反映させるように努めている。又、カンファレンスで本人様にとって何が必要なのか、望んでいることは何か等を検討し、介護計画の作成に努めている。	○	職員の視点から見た業務をこなす為の介護計画にならないように注意し、今後も本人様やご家族の意向を重視した介護計画の作成に努める。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にカンファレンスを行い、介護計画が実施出来たか確認、評価、見直しを行っている。又、本人様に状態の変化があった場合は、その都度介護計画の見直しを行い、現状に沿った対応、計画作成を行っている。	○	状態の変化に気付き、迅速な対応が出来るように更に日々の関わりや職員間の情報の共有を大切にし、現状に適した介護計画を作成していきたい。
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や出来事、職員の対応とその結果等を個人記録に残し、職員間で共有することで統一したケアを提供できるように努めている。又、個人記録を基に介護計画の見直し、評価を行っている。	○	ケアプラン実行表を作成し、職員一人ひとりが入居者様一人ひとりのサービス内容を把握し、統一したケアの提供が出来るように取り組んでいる。又、介護計画の見直しにも活かしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制となり、可能な限り苑での生活が送れるように、日常的な健康管理や医療処置を受けながらの生活の維持に努めている。又、ご本人やご家族の状況に応じ、通院や送迎等、必要な支援に柔軟に対応している。	○	入院や退院、急変時等その時の状況に応じ、適切な支援が出来るように努めていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアによる和太鼓、しめ縄作り、ピアノコンサートや小学生・保育園児の慰問、中学生の職場体験等多くの方々の受け入れを行った。年2回の消防訓練や地区のグランドゴルフや防災週間の夜回りにも参加している。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人様やご家族の意向や必要性に応じて、訪問マッサージや訪問理美容等の外部のサービスの利用を行っている。	○	他のケアマネジャーとの交流を深めていきたい。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護をはじめ、ケアマネジメント等について積極的に相談していきたい。	○	必要な場合は積極的に地域包括支援センターとの連携を図り、入居者様のより良い生活のマネジメントに努めていきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様並びにご家族の希望される医療機関への受診が円滑に出来るよう支援している。	○	経営母体である松本医院の医師と相談し、本人様、ご家族が納得の得られる医療機関への受診支援を継続させていきたい。
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	経営母体である松本医院で診断・治療行われているが、入居者様の状態の変化やご家族の希望により、認知症専門医への紹介をされたり、薬の処方等専門的治療を受けられるよう支援を行っている。又、再診時には苑での生活状況の情報支援も行っている。	○	今後も継続していきたい。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日のバイタル測定、心身状態等、健康管理を行い変化や疑問等、看護師更には医師に報告し、状態変化時の連絡体制も出来ている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された際は病院のソーシャルワーカーや看護師と情報交換を行ったり、面会に何う等して状態把握に努めている。又、退院時はご家族や病院と連絡を取り合い、速やかに受け入れ体制を整えるように努めている。	○	今後も病院やご家族との情報交換に努め、早期退院出来るように支援していく。
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期ケアについてご家族、本人様の要望されるケアに望めるよう医師・管理者・ケアマネージャー・職員・ご家族との話し合いを行い、方針を共有している。	○	状況により話し合いの場を持っている。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師・看護師・職員・ご家族が一体となり、入居者様が日々をより良く過ごしていただけるよう、今後の方針や対応を協議し、共有したケアができるよう援助している。終末期はケアノートを作成し、本人様、ご家族の心理の変化や医師・職員・看護師の対応を記録している。	○	ターミナルケアの学習会だけではなく、作成したケアノートより反省点、検討事項を協議し、次回のケアに活かせるよう努めたい。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報の交換を十分に行い、本人様、ご家族の不安を軽減するように努めている。入院の場合にも同じような状況が考えられる為、面会を重ねて情報交換、状態把握に努めている。	○	現在の状況を維持し、新たに工夫出来ることは積極的に取り組んでいく。
	<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	親しみある言葉と共に失礼な言葉掛けにならぬよう心掛けている。記録や個人情報に関しても保管し、不要になった用紙はシュレッダー処理し、情報の取扱いに十分注意している。	○	今後も言葉掛けや情報等の取扱いに注意していく。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人様の訴えを傾聴し、職員側の考えだけで行動しないように本人様の考えを尊重していくように心掛けている。	○	本人様の訴えや希望が聞かれた場合は、なるべく本人様の希望に沿った支援をしていきたい。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の決まった流れにとらわれず、本人様の気持ちや体調に応じて午睡していただいたり、時間によっては居室のテレビを観ていただいたり本人様の希望される過ごし方をいただいている。	○	ウォーターベッドやマッサージチェア等希望される方は定期的に声掛けし使用していただいている。



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洗顔・歯磨き・整髪等の身だしなみは、出来ない部分のみお手伝いしている。理容は2ヶ月に1回、美容は毎月の訪問により希望者は髪のカットをしていただいている。	○	本人様の意思によりマネキュアを塗られる時は換気を行ったり、希望される時は髪を結ぶ手伝いをし、本人様の希望に沿えるように対応している。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、トレイ拭き、食後の下膳等を手伝っていただいている。美味しく食事をとっていただくようにカレーが嫌いな方には肉じゃがにして提供したり、誕生日に本人様が希望される食事を準備したりしている。	○	同じ時間に必ず全員一緒にとるのではなく、本人様の体調やペース、状況に応じて食事の時間をずらして気持ち良く食事をとっていただけようようにしている。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望される物を職員が買って来たり、職員と共に買物に行き好きな物を買っていただき、購入された物によって食事の時や希望時に提供し、日常的に楽しんでいただいている。現在、お酒やたばこを好まれる方はいらっしゃらない。	○	自宅で生活されていた頃と同じように好みの物を好きな時間に食べていただけるように日々のコミュニケーションより把握し提供していく。
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、本人様の排泄パターンを知り、本人様に合わせた声掛け援助を行っている。	○	今現在のトイレ、ポータブルトイレでの排泄を維持していけるように努めている。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人様の希望に合わせた入浴を行っている。拒否があった時や体調不良で入浴出来ない場合は、清拭や足浴を行っている。	○	今後も本人様の希望に沿った入浴をしていけるように心掛ける。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	家での生活習慣を崩さないようにテレビ鑑賞や入浴、ベッド臥床等本人様のペースで過ごしてもらっている。又、足浴の希望時は足浴を行い、足のマッサージを行い、安眠、休息に繋がられるように支援している。	○	一人ひとりのペース、生活習慣を崩さないように支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干したり、たたむのを手伝ってもらったり、食事の時テーブル拭きや下膳等をしていただいている。又、職員は本人様と一緒にレクリエーション等をしたり、天候の良い時は苑の周りを散歩したりしている。	○	これからも知恵をしばって入居者様の楽しい生活を支援していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様が職員に買物を頼まれる時、レシートを渡し、後からお金をいただいている。本人様はお小遣い帳にレシートを貼り、残金を計算される。	○	入居者様1名の方は、お金の自己管理をなさっているようで、紛失のないように気遣いながら見守っている。あとの方は苑で管理しているが、買物をされる時は付き添ってお手伝いしている。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者様ご希望時には、買物に行ったり、暖かい日は皆様と一緒に苑の周りを散歩したりしている。これからの季節は、夕涼みや水まき等の気分転換の支援を行っている。	○	今後も計画を立てて入居者様一人ひとりの希望に応じて外出出来るように取り組んでいきたい。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春のバスハイクは、ご家族に案内し、一緒に楽しんでいただいている。その他、小ドライブ、外食、郷土の祭りや地域の行事等への参加も行っている。	○	これからも出来るだけ多く機会を持ち、支援していきたい。
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望時に電話を掛けられたり、ご家族の方より本人様の健康状態や日常生活等の様子を伺われる電話がある。又、友人、知人へお手紙を書かれている。必要があれば付き添ってお手伝いをしている。	○	ご家族やご友人との関わりを意欲を持って続けていかれるように支援していきたい。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問いただいた時は、笑顔で挨拶を行い、積極的にコミュニケーションを図りお茶等を出し、楽しく過ごされるような雰囲気作りに努めている。	○	お帰りの際には、苑の行事案内等をして、またお出かけくださいとお送りしている。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的なミーティングで入居者様の問題行動の原因を考え、個人に合った援助を行い、身体拘束をしないように努めている。	○	今後も入居者様の立場になり、職員間の声掛け、見守りを行っていき、適切なケアを行っていききたい。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は開放しており、常に入居者様の所在を確認した上で、人の出入りが分かるようにチャイムや鈴を設置している。鈴の音がした時は、職員が出入りを確認して入居者様への安全に配慮している。	○	今後も現在の状況が維持出来るように努めていきたい。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で声を掛け合い、入居者様の安全を確認している。居室で過ごされる際は、本人様のペースで過ごしてもらえよう配慮し、入居者様一人ひとりの特徴を考慮してプライバシーの保護に努め、必要に応じて声掛けを行い、なるべく	○	夜間は入居者様の特徴や状態を含めて、巡視時の工夫を行っている。随時、職員間で話し合い、安全への工夫を行っている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	対物は直接視界に入らないようにしている。ハサミ等の事務用品や洗剤、薬品は場所を定めて本数確認を行い、紛失防止に努めている。特に危険な包丁は保管棚に鍵を設置して危険予防に努めている。使用時には声掛け、見守りを行い、安全に使用していただけるように努めている。	○	今後も物品使用時の状況や本人様の状態に留意し、安全確保に努める。
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやり・はっと報告書から発生状況を知ること、事故防止への対応を随時工夫している。職員間での経験や知識を活かして話し合い、入居者様一人ひとりに合った安全確保に努めている。	○	職員間で情報を細かく伝え合い、状況判断を高めていき、更なる事故防止に努める。
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	対応マニュアルを作成している。救急法等の講習に参加する等し、対応時に備えている。	○	外部への講習に限らず、苑内での勉強会で対応法を学んでいく。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、職員の少ない夜間を想定した避難訓練を職員・入居者様合同で実施している。又、地域の消防署・消防団と連携した防御訓練も行い協力体制を築いている。	○	年2回の訓練を積み重ね、入居者様も状況把握をされるようになってきた。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	私物ベッドからの立ち上がりが悪く、転倒リスクがあった為、ご家族へ説明し、レンタルベッドを利用していただいた。その結果、立ち上がりが良くなり、リスクの軽減に繋がった。	○	リスクが考えられる場合は、職員間で話し合い、ご家族へ説明、協力を得ていくことで、入居者様が安心して過ごせるように支援していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル・排泄・食欲等申し送り、排泄チェック表での異変の発見に努め、状況により医療機関へ受診している。管理者への報告、職員間での申し送りが徹底して行うよう努めている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は母体である松本医院より処方してもらい、薬局で一包化と日付・氏名・服薬時を記入してもらい、処方箋はカルテに綴じ、薬剤変更時はカルテの熱計表へ記入し、業務日誌、申し送りノートでの職員間の連絡を図っている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表での毎日の排泄、食事量、水分量のチェックをしている。野菜、穀類、果物等食物繊維を多く含む食物を毎食事に取り入れ調理されており、ラジオ体操、散歩等身体を動かす機会を多く持つよう心掛けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、お茶でのうがいを実施。一人ひとりのその日の状態に応じた支援をし、義歯の消毒も毎日行い、歯が無い方もガーゼを使用し、歯茎、舌の清潔保持に努めている。	○	今後も毎食後、義歯の手入れや口腔内の清潔保持に努めていく。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下の悪い入居者様、歯の悪い入居者様の為に、キザミ食、ミキサー食を作り、嚥下が悪い場合はトロミ材でトロミを付け食べていただく。硬い物が駄目な入居者様には軟らかくし、又は少し切って食べてもらう。毎月、体重を測り食事量を調整している。	○	献立は栄養を考えて作っていても、食べてもらって初めて栄養摂取になるので、食べていただく為に食器や盛り付けを考え、見て食欲が湧くように工夫をしている。ミキサー食の場合、カロリーの摂取量が少ないのでカロリーを上げる為、料理の中にスキムミルクを混ぜて食べていただいている。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者様、職員の手洗いを徹底している。トイレ後は石鹸を使用し、食前はアルコールでの手指の消毒を行ってもらっている。ご家族や外部訪問者様には来苑時、帰苑時のアルコール消毒をお願いしている。入居者様居室、玄関ドアや手すり等は消毒液(オスバン)使用での清掃を行っている。インフルエンザ、ノロウイルス等流行期には、玄関に張り紙をし、訪問者様よりの感染予防に努めている。	○	ご家族、外部訪問者様へのアルコール消毒の徹底をしていただくよう、分かりやすい場所への設置、張り紙を考えていく。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に冷蔵庫内の清掃・まな板の漂白(週2回)を実施。まな板や包丁は肉、魚、野菜、調理済とそれぞれ区別している。肉、魚、卵の中心温度(79℃以上)を測ってもらい、料理は調理後2時間以内に提供している。又、食中毒が発生した場合に備えて検査を取り、14日間冷凍保存している。食品は開封後に日付を記入して賞味期限に関係なく早めに使うようにしている。食品は先入先出を心掛ける。	○	肉、魚、野菜(国内産)等は生の食材を使うようにし、それに伴い肉、魚、卵、泥が付いた野菜等は下処理後、まな板、包丁、シンク等を除菌洗剤で洗い、熱い湯をかけ熱湯消毒をする。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関を開けると田園が広がり、手すりの付いたスロープや木々、花と季節感を感じることができ、安心して出入り出来るように心掛けている。	○	入居者様と一緒に花植え、水やりや草取りを行い、花の成長観察や苑の周りをいつも綺麗にしていきたい。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わっていただけるように、フロアには手作りカレンダーや行事の思い出写真を飾っている。	○	西側の窓は眩しい為、フィルム製の季節の写真を貼り、時には入居者様とレクリエーションで作成したちぎり絵を貼って対応している。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いスペースの一角にソファを置き、季節に応じた飾り付けをしている。職員は入居者様が思い思いに過ごしていただけるようにしている。	○	目の届く所に畳2枚敷き、お昼寝や足を伸ばされたりして畳を感じてもらっている。
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやテーブル又はテレビ等を持って来ることにより、居心地良く過ごしていただいている。一人暮らしの方は御位牌を持って来てあり、毎朝手を合わせ水かえしてある。	○	ひとつでも多くの家庭の温もりを感じていただけるよう、馴染みの物を持って来ていただくようにしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	建物には全館換気システムが完備されており窓は全て二重ガラスにしている。冬場の結露もなく室内は快適な環境となっている。窓の開放やエアコンにより温度・湿度の調整はこまめに行なっている。	○	今後も寝具や衣類等で一人ひとりの体調に合った温度調整をしていく。
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すり、車イス等を等を活用し入居者の残存能力を活かした生活が送れるように工夫している。トイレの手すりには滑り止めをつけ、ポータブルトイレは位置や向き、高さを調節し入居者に合った対応に努めている。	○	より安全に快適に過ごしていただく為、こまめな掃除・位置等のチェックを行っていく。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食事は、出来るだけ自力摂取していただけるよう、その方に合った器やスプーン・フォークを提供し見守りを欠かさないようにしている。	○	食事は生活の中で楽しみのひとつなので、楽しく美味しい食事が出来るような環境を工夫していく。
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキにスロープを設置したことにより車イスでの室外への移動がしやすくなり散歩や庭仕事のお手伝いなど楽しんでいただいている。	○	朝顔や紫陽花・胡瓜・茄子等の四季を入居様が幼い頃から親しんでこられた四季の花や野菜を身近におき楽しんでいきたい。

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
<b>v サービスの成果に関する項目</b>		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない